日中関係学会新春講演会 宮本雄二会長「米中関係と日本の生きる道」(2)

2021年1月28日（質疑応答部分）

Ｑ１）レジュメの最後に紹介されているＪＡＣＣＣＯは、青年交流を通じて文化の創造と友好協力の深化を図るとされていますが、宮本会長は、日中の若者にどのような期待を寄せていらっしゃるのでしょうか？

A1)若者への期待は、「もうこれからは、あなたたちの時代だから、自由闊達に、自分たちの時代、自分たちの世界を作ってくれ」、ということですね。我々は色々な経験から、「ああしてはいけない」、「こうした方が良い」と言えますけれども、実際に今の現実の社会の中で、本当に何が良いかを考え、生かしていくのは、若い人たちだと思います。とりわけ国民同士の交流を、どういう形で、どういう内容でやっていくかについては、若い人たちが自分で考えて、どんどんやっていったら良いと思います。ＪＡＣＣＯはプラットフォームの提供なんですね。そこに参加している若い人たちが、更に活動の輪を広げていく。そこを通じて、更に学生の交流の輪が拡大していって、どんどん大きくなるのを望んでいる、というのが基本的な発想です。

Q2）先ほど「尊敬される中国」というご発言がありましたが、例えば、どういう分野で、どんなことをすれば、中国は尊敬されるようになっていくでしょうか？

A2)いま、中国は、伝統的な価値観を取り戻そうとしています。共産主義というのは、マルクス・エンゲルス以来、物質的な問題を解決することによって人間を幸せにできるという前提で出来上がっているイデオロギーです。しかし、物質的な問題が解決したあと、どうしたら幸せになれるか、という問題への答えは持っていないんですね。
ところが、豊かになってみたら、今度は、幸せになるには何をしたらよいのかといったときに、価値観の問題が非常に重要な問題になってきた。私が北京に居た頃から、企業の方や有識者の人は、急速に宗教への傾斜を深めていました。習近平さんは、伝統的な価値観というものを取り戻そうと。ある中国のイデオロギーの責任者と話していたら、「中国の特色ある」というのを、「中国の伝統的価値観」に置き換えようとしていましたね。「中国の伝統的価値観」が体現した社会主義ということで、その問題を解決しようとしていたんです。
「尊敬される中国」は、そこから出てくると思うんです。例えば、コロナの問題。いま、中国では、初期の間違いを忘れたかの如く、「中国は封じ込めをして、世界で一番良い成績を挙げた」、「中国の統治のやり方が優れている」、そればっかりですね。しかし、中国がいま考えなければいけないのは、「初期の段階で我々がちゃんと封じ込めておかなかったために、皆様方にこれだけの負担をかけてしまった。皆さん方がお困りになることを十分に思い至らず、申し訳ないと思っている」と。例えば、こういう言い方をすれば、中国に対する見方は変わる。尊敬される、ということになってくるわけですよ。伝統的な価値観に従って、『立派な中国人』と昔言われたようなやり方をすれば、尊敬される中国になるんですよ。

Ｑ３）私たちは、また、世界は、どういう中国を望むのでしょうか。西洋の価値観を共有する中国、ナンバーワンをむき出しに狙わない中国、どんな中国を私たちは見たいのでしょうか。

A3)いわゆる『普遍的価値』と言われているものの中味は、まだ定義ができていません。『自由』とは何か。『人権』とは何か。ひとつひとつ掘り下げていけば、アメリカが考える人権と、ドイツの人の考える人権と、相当な差が出てきます。だから、普遍的価値の中味は多様性があるということを、世界全体はまず認める必要があるんですね。
中国は、中国の特色ある人権解釈でいいわけです。しかし、人権が大事なことは、中国も認めているわけです。これまでの彼らのロジックは生存権でした。「中国には貧しい人がこれだけいる。生存権を満足させることが一番大事であり、それ以外の人権はその後に来る。我々だって人権は重視しているんだ」と。いま、中国は貧困人口を無くし、生存権の問題をクリアしたわけですから、人権問題についてどういうポジションをとるか世界に回答しなければならないわけです。
西洋の価値観と中国の価値観の間に距離はありますが、同じ土俵の上に立っていると、私は思います。中国政府は人権規約に署名していますし、普遍的価値を認めるか、認めないかというと、胡錦涛政権までは認めていたんです。習近平政権は、それを逆転させようとしているわけですが、習近平さんのあと、どういう姿勢をとるかは分からないということです。西洋の価値観と中国の価値観は対立して、未来永劫、共存できないと考える必要はない。いずれ、そう遠くない将来に、中国が豊かになり、社会が成熟してくるにつれて、中国自身も、我々が直面しているような人権問題に直面するんです。その時に、中国の対応が変わってくるということは、あり得ると思ってますから、あまり二分法でやらない方がいいだろうと、私は思っています。

Ｑ４）中国の政治社会体制は儒教の影響が極めて強いという認識がありますが、もうひとつ、道教の存在はどのようにお考えですか。

A4)最近、オンラインで、ある中国の友人たちと意見交換した時、彼は、「いわゆる共産主義、マルクス・エンゲルスが言った共産主義の理想郷は、道教の描く理想郷と同じだよと。だから中国社会では、共産主義が根付くことができたんだ」と解説してくれました。
確かに、中国の一般社会の価値観というのは、道教に裏打ちされたものだったと言われています。中国社会そのものをとれば、儒教よりも道教の方が、影響が強いだろうということなんですね。しかし、統治、ガバナンスという観点からすると、道教よりも完全に儒教の方が使い道が多いんですね。統治する側の価値観であり、倫理観ですから。
いま、習近平さんは、儒学の方に重点を置いた伝統的価値観というものを、もう一回復活して、中国共産党の統治のテコ入れをしようと。中国共産党が一番弱かった、価値観の問題、倫理観の問題、こういうものに儒教を中心とする伝統的な価値観を注入して、中国共産党を更に支えようという動きだと思います。逆に言うと、彼らがこれを取り戻せば取り戻すほど、儒学の価値観で彼らと議論することができる。じゃあ、ベトナムに対して、或いはフィリピンに対して、ああいうことをやっているのは正しいのかという議論を、もっともっとやれるようになることを、私も期待しています。

Ｑ５）中国がアメリカにとって代わって「クラス委員長」になったとしたら、世界の警察官みたいな役割、つまり蛮夷にかかわっていきたいと思っているんでしょうか？

A5)中国が一番になることはないと思っています。ＧＤＰで中国がアメリカを抜くという日は間違いなく来ると思いますが、トータルな国力というところで、果たして中国がアメリカを抜けるだろうかということになると、大きな疑問符が付くと思います。最大の問題は、ソフトパワーなんですね。覇権国や準覇権国と言われる国々は、イデオロギー、それからイデオロギーを体現するライフスタイルが、多くの国に対して魅力あるものに映ったわけです。イギリスもフランスも、そしてアメリカも、体現するライフスタイルが多くの人を魅了したと。
中国にそれができるかどうかというのが、最大のハードルだというふうに思います。今の中国共産党の統治の下で、世界の人が憧れるようなソフトパワーになり得るかというと、私は大きなクエスチョンマークを持っています。中国モデルのカギ、肝は何かといったら、それは中国共産党の統治ですよ。これが無かったら、中国モデルは実現しないんです。中国共産党というのは、中国の歴史的、文化的背景の下に出来上がってきた政党で、アフリカのエチオピアで同じものができるハズないんですね。すなわち、万能の政党組織というか、党組織というものは、世界の中で作れる国は本当に数少ない。従って、中国モデルは、大きな限界を持っていると思います。
ＩＭＦの長期統計でも、超長期をとれば、２０５０何年かに、アメリカの経済成長が中国をもう一度抜く日が来るんですね。ですから、そういう意味でも、中国がクラスの一番になって、何でもかんでも思う通りにするというのは、ほぼ不可能だというふうに思っています。

Q6）民主主義的な考え方は、アジアでも既に共通の価値観になってきていると思いますが、アジアで中国的な価値観を阻止するには、日本が先頭に立つべきではないでしょうか？

A6)私の色々な立論は、中国が今のままの状態で突っ走れば、いずれ必ず壁にぶつかる、中国自体が変容せざるを得ないという前提に立っています。それは、我々が力で押さえつけるということではなく、中国自身、とりわけ中国社会の変化が、中国共産党の統治を変えるか、或いは中国共産党の統治を追い出す、そういうところに行くのではないかというふうに思っています。
皆が物質的に豊かになったあと、いわゆる民主主義が追及している価値観を放棄できるんでしょうか。中国では、すでに先進国、それも大変な先進国の生活水準に達している地域がたくさん出て来た。そういうところで育った人の価値観というものは、２０年前、３０年前とはまったく違う。右向け右で、皆一緒に右を向くのではなくて、それぞれ自分の考え方や、追求するものがあり、価値観なり必要とするものが多様化しているんですね。
いずれ、習近平さんの次の次の世代くらいの人たちが、中国の指導者になった時には、そういう社会のことを十分理解して、共産党はどう共存するのか、どう変えなければいけないのか、選択を迫られると、私は思っています。だから、いまの中国のこのモデルが、ずっと半永久的に生き延びるとは思っていません。将来、我々に近づいてくる可能性があるし、それができるだけ早いことを望んでいるし、そういう方向に誘導し加速させるというのが、日米欧、そしてＡＳＥＡＮ諸国も含めた、国際社会の最も賢明な作戦だというふうに思っています。

中国自身、どういう選択をするか、難しい状況になっていますし、アメリカ自身も、デモクラシーの再建という極めて大事な挑戦に直面しています。更に、目を足元に向ければ、日本のいまの状況は、本当に憂うべきです。ちゃんとやってくれないところが多すぎて、日本国民として「なんだ！」という気持ちになっているのも事実です。従って、きょう皆さん方に一番お伝えしたいのは、日本こそ、もっと頑張ってやろうと。とにかく、コロナが終わったら、日本社会全体の総括。なんでこんな体たらくになったのか、原因を徹底的に究明して、責任を取る人はとってもらって、二度とこういうことが起こらないような、そういう日本社会を構築するためにも、今度こそ、大反省会、即行動を始めるような、そんな日本にならないと、本当にダメだなあと思います。

＃＃＃＃